幼児・小学生を持つ保護者の方に役立つ 朝日未来教育シンポジウム

グローバル社会に向けての教育と大学入試改革

紙面採録

グローバル人材の育成がさけばれる昨今、2020年に控えた大学入試改革に関する情報を伝える「朝日未来教育シンポジウム」が9月9日、朝日ホールで開催されました。最初に、0歳からの早期グローバルリーダー教育を展開するエコール・ドゥ・アンファン理事長で、教育評論家の安田龍男氏が講演。続いてのパネルディスカッションでは、小学校・中学校・高校の校長先生と文部科学省の国際教育担当者を迎え、各校の方針やこれからの学校教育を語っていただきました。

オープニングスピーチ　「グローバル社会に向けての入試改革」

教育評論家／エコール・ドゥ・アンファン理事長
安田龍男氏

先日の経団連会長による就活ルール撤廃宣言が話題になっていますが、優秀な学生は勉強もしっかりしながら早期に内定を得ているのが実状です。では、優秀な人材にはどんな力があるのでしょう？ 私は、「学力」、「体力」、「人間力」、「英語・国語力」、「人脈力」だと考えます。グローバル社会に向けて大学入試が変わります。しかしこの5つの力があれば入試が変わっても恐れることはなく、グローバル社会でリーダーとして活躍できます。

学力の基本は勉強ですが、AIが浸透する中、やみくもな暗記はもう要りません。求められるのは、大学入試でも問われる、知識を知恵に変えて活用する力。知識を詰め込むような塾も不要になり、一方、より必要になるのは楽しく主体的に学べる子を育てることです。論語にある言葉「知好楽」は、知識がある人よりも好きな人、さらに楽しくて仕方がない人が学問を究められるという意味です。自ら楽しく学べる子が強いのです。

次に体力で、心身ともに健康でなくてはいけません。精神面の健康を保つにも幼少期の過ごし方が大切です。そして、文化的な背景も体格も違う世界の人と対等に渡り合うには、人間力が必須。その要素である分析力・決断力・行動力を日常の中でつけていく必要があります。グローバルというと思い浮かぶのは英語力ですが、英語はいつからでも学べます。その前に国語力を、コミュニケーション力やプレゼンテーション力と併せて養うべきです。国語力を身につけるには、保護者の方がともに本や新聞を読み、感想や意見を話し合うことも有効です。人脈力は学校や習い事でもつくため、学校・教室選びも大切。海外に友だちをつくることで世界に人脈が広がります。

5つの力を念頭に、楽しく子育てし、子どもが楽しく成長できることが重要です。また、私たち教育者は、「ティーチャー」ではなく能力を引き出す「エデュケーター」であるべきと考えます。

パネルディスカッション　「将来のグローバルリーダーと大学入試改革」

［パネリスト］
西脇 良先生［南山大学附属小学校 校長］
森田 圭介先生［名進研小学校 校長］
中嶋 哲彦先生［名古屋大学教育学部附属中学・高等学校 校長］
ヨセフ・ブルーノ・ダシオン先生［南山高等学校・中学校 校長］
杉山 賢純先生［愛知県立旭丘高等学校 校長］
小幡 泰弘氏［文部科学省初等中等教育局 国際教育課長］
（発言順）
［コーディネーター］安田龍男氏［教育評論家／エコール・ドゥ・アンファン理事長］

”知識の活用“を問う 新しい大学入試に向けて

安田　まずは小幡さんから大学入試改革、特に英語についてご説明いただけますか。

小幡　大学入試は教育すべき中身に応じて変わる必要があります。学習指導要領では、英語は読む、聞くだけでなく、話す、書くも含めた4技能を育成することとされています。指導と評価の一体化の一環である高大接続改革の結果が大学入試改革です。大きく変わるのは2つ。センター試験に代わる共通テストで、英語は読む・聞くに話す・書くを加えた4技能が民間試験の活用で評価されるようになります。高3の4～12月に民間試験を2回受け、その結果を大学に送付します。もうひとつは国語、数学での記述式問題の導入です。知識を使う、社会で役立てられることを評価するのがその大きな方向性です。

安田　対する各校の方針、対策を教えてください。

西脇　南山小の教育は大学入試のためではなく、教育モットー「人間の尊厳のために(かけがえのないあなたとわたしのために)」と児童中心主義のスタイルを追求していく方針です。以前から、学力の3要素のうち主体性・多様性・協働性を特に重視し、遊びの内容の充実、自主学習ノートを介した教師との知的な対話、活動や行事、異学年交流などを推進。思考力・判断力・表現力も伸ばしています。知識・技能に関しては国語・算数の「がんばりタイム」を毎日積み重ね、確認・サポート、個別対応も実施しています。

森田　新しいテストで測定する確かな学力、知識の活用や主体的に学習に取り組む態度に対してアクティブ・ラーニングの必要性が高まっています。名進研小ではその学び方を身につけることが第一ととらえ、取り入れているのが、持ち回りでリーダー役を務める「子ども司会」です。また、今までと異なる問題も出される大学入試改革の影響を受け、開成ショックと呼ばれるように中学入試も変わっています。中学受験を目指す本学では、その指導でも大学入試への対応ができます。

学び方を身につけることから、自律・他利精神の国際人を育成

名進研小学校
校長
森田 圭介先生

中嶋　名大附属中・高は、国立大附属校として教育モデルを提示する役割があり、自由と自主を尊重して個性と能力を伸ばす、心豊かで主体性のある人間形成、確かな基礎学力、それぞれの生き方をつかませ、自立できる力を育てることを方針に、協同的探求学習や論理的思考力の育成、学習活動と進路選択での有機的結合などを前から行っています。また、文科省「スーパーサイエンスハイスクール」と「スーパーグローバルハイスクール」の両方に選ばれ、先進的かつバランスのよい教育を実践しています。

ダシオン　南山高・中の教育も大学入試のためではありませんが、今回の改革の方針に沿うものであり、流れを先行しています。例えば英語は10年前から4技能を重視し、ネイティブの先生が指導してスピーチ発表も行っています。教科横断型授業の社会探求ゼミも同じく10年前からです。また、男子部の市内探訪や職業体験、福祉体験、女子部のクリスマス修養会、長崎研修旅行などの行事、部活動など、多様な活動を通して主体性を育んでいます。

杉山　旭丘高校では、記述式や正解が一つではない問題に対しては今までの2次試験への対応で十分と考え、英語4技能への準備もすでに行っています。具体的には、質の高い授業を大切にして基礎を徹底して深く学び、定期テストでも記述力を高め、討論会や発表などで発信力を育てています。英語の4技能試験も先行実施しています。また、全て生徒が企画する学校祭などの特別活動を通して、主体性を高め、受験でも最も必要な人間力を育成しています。

世界に求められるリーダーを育てるために

安田　グローバルリーダーの育成にはどのように取り組んでいますか？

西脇　意識すべきは、地球規模の視点での教育・子育て。考えるべきは、我が子の人生の幸せは何であり、何と共にあるのか。人生の根っことなる世界観形成のひとつの視座が、国際社会が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。その理念「誰一人取り残さない」は南山の教育モットーそのもの。それに必要な、違いを認め、新しいことをつくっていく力を学校生活の中で養っています。

森田　本学の考えるグローバルリーダー像は、国際人として自律し、他利の精神で、国際社会に貢献できる人材。国際人とは、自国の伝統や文化を正しく理解し、異文化を理解・尊重する寛容さを持ち合わせた人です。それに加えてコミュニケーション能力と、ツールとしての英語力に重点を置いています。能や狂言、茶道・華道といった伝統文化の学習などから日本文化を理解することを初めの一歩に、道徳の授業にソーシャルスキル・トレーニングを導入し、ネイティブの授業や海外研修も実施しています。

中嶋　リーダーは普通の人の中に現れ、普通の人とつながり合う人です。そして、本学のスローガンは「勇気ある知識人」ですが、大事なのは勇気、とりわけ事実と向き合い、真実を見極められることです。例えば、バナナは安価に食べられますが、背後には生産国の人々の貧困があります。日本人に不都合な事実にも向き合うことが大切だと思います。

ダシオン　まずは足元から。一人一人個性を持っている生徒が生活するなかで互いに認め、一緒に何かを実現する関係をつくる。そこから他者と理解し合える力を育む。これが本学の考えるグローバル教育です。また、日本語は世界一丁寧な言葉で、人に対する理解ややさしさがあります。世界へ羽ばたくうえで、そんな所に象徴される日本人の心も大切にしています。

杉山　グローバルリーダーに必要なものとして、自己肯定感や自己満足感、コミュニケーション能力や協働する力や人間力などがあります。これからの時代にはイノベーションを創出する力や挑戦する力、様々な経験から学んだことを活かす力が必要です。本校では学びの質を追求し、「スーパーグローバルハイスクール」としてイギリス・ケンブリッジ研修や高山でのグローバル・サマーフェスタなどを通してリーダーを育成し、人としての総合力を高めています。

小幡　おっしゃられる通り、グローバル＝国際的＝英語ではありません。英語は必要ですが、中身がなければグローバル人材にはなれません。最も大切なのは何を伝えるのかということと多様性を受け止められることでないかと考えます。

安田　保護者の方々にアドバイスをお願いします。

西脇　グローバルな視点で、普段通りの日常の生活を、子どもと一緒に、丁寧に、楽しみながら送ってください。そして、家庭でも挨拶を。それによって心の扉が開かれます。

森田　幼児期に大切にしてほしいのは親子のコミュニケーション。限られた時間でもしっかり話を聞き、子どもが自分の考えをきちんと言えるようにしてください。それから何でもバーチャルで体験できる時代ですが、感性が豊かな時期に本物を見る機会をたくさん作ってほしいと思います。

中嶋　昔、忘れ物の多い子だった私は、分度器なしで角度を測れる方法を考え、三角関数のタンジェントを発見しました。マイナスから発見することもできます。発見や発明は喜びであり、自信になります。その機を奪わないためにも、失敗はダメと言わないでください。また、親が姿勢を見せることも大切です。

ダシオン　三つ子の魂百までとも言います。できるだけ穏やかな雰囲気の中で過ごさせてあげてください。子どもとの時間を大切にし、幼少期から小学生までは手を握ったり、抱っこしたり、スキンシップも豊かにしてください。子にとって、家で作る料理を一緒に食べることが宝になり、親の頑張る姿を見てハードルを乗り越えられます。また、学校選びでも声を聞いてほしいと思います。

杉山　愛情で満たし個性を認めてあげてください。海外では「みんな違っていい」で自己肯定感が高いのです。異なることは悪いことばかりではありません。すべての子どもが幸せになるためには、相対評価ではなく絶対評価が大切です。幼少期には心の満足感を与えてあげてください。

小幡　こうでなければいけないではなく、選択肢から選べること、失敗しても再チャレンジや他の可能性があるという気持ちの余裕を持つことも必要では。

安田　ありがとうございました。子育ては本来幸せなものですが、辛くなる時もあります。でも「辛」という字は一本線を足すと「幸」になります。ご家族でその一本を見つけてください。

幸せな子育てに大切なこと

南山大学附属小学校
校長
西脇 良先生

地球規模の視点で実践する、多様な人と協働できる基盤づくり

名古屋大学教育学部附属中学・高等学校
校長
中嶋 哲彦先生

育てたいのは、生き方をつかみとり世界の真実と向き合う勇気ある人

南山高等学校・中学校
校長
ヨセフ・ブルーノ・ダシオン先生

日本人の心を大切にしながら、他者と理解し合える力を育て続ける

愛知県立旭丘高等学校
校長
杉山 賢純先生

どう学び、何ができるようになるか 相対的評価ではなく絶対的評価が大切

文部科学省初等中等教育局
国際教育課長
小幡 泰弘氏

学んだ知識を社会で役立てられ多様性を受容できる教育が必要

■ 主 催／朝日新聞社メディアビジネス局　■ 協 賛／エコール・ドゥ・アンファン

大切なお子さまに最高の教育を
Ecole de l'Enfant